

故学長 中村直勝先生 追悼のことば

昭和五十一年二月二十三日、故学長中村直勝先生は、夜来の嵐に吹き散る花の如く、溘焉として長逝致されました。教職員一同、且つはその無常なるに驚き、且つはその矍鑠たる御風貌にもはや接することの出来ぬのを悲しみ、痛酸の極、その堪うるところを知らぬ有様であります。

先生は滋賀県大津市長等神社宮司家に御誕生、幼少のころより俊秀の誉長く、長ずるや笈を負うて京都大学に遊学、国史学を修められ、最優秀の成績をもって御卒業ののち、第三高等学校、京都大学、京都女子大学に助教また教授として御歴任、その間、現今、政経文教各界に活躍する幾多の有能の英才を育成されましたことは、世人のよく知るところであります。

昭和四十一年四月、本学々長に迎えられ、時すでに老齢にも拘らず、壯者を凌ぐ勢をもって、大学教育に尽瘁され、あわせて本学園理事としての重責に任じ、終焉の片時にも精励致されました。

先生は教職繁忙の際にも、学者としての御研鑽は絶えることなく、等身にあまる許多の著作を撰述され、その範囲は、御専門の国史学は言うまでもなく、広く地方志から趣味豊かな芸能にも及び、その創意にすぐれた御見識は、常に世人の注目するところであり、わけても古文書学においては、日本における第一人者として天下の認めるところであります。

先生は、資性高邁、大学の運営に当っても、常に寛容の精神をもって、温情を籠めて対処され、教職員ならびに学生の間には、慈父のごとく敬慕されてきました。その日常談笑の間において、奇智触発する御容姿は、今なお彷彿として眼前に浮び上るかのごとくであります。

永く百年の御齡を重ねられ、何時までも御指導を給わるものと信じておりましたが、遂に幽明境を異にするに至りましたことは返すがえすも遺憾であります。時しも今年、本大学創立十週年を迎えるに当り、この高德を失うことは、洵に大きな損失であります。ただただ昊天の弔みの足らざるを恨むばかりであります。この上は本学々風の基礎を作られた初代学長として、世々代々模範と仰ぎ、その御遺徳を遵奉することこそ、せめてもの御報恩と覚悟致しております。

謹んで先生の御冥福をお祈りして追悼のことばと致します。

学部長 中田勇次郎

故 中村直勝先生 略歴

川勝 政太郎 編

- 一、明治二十三年六月七日、滋賀県大津市長等神社宮司家の長男として出生。
- 一、大正四年七月、京都帝国大学文科大学毕业。
- 一、大正五年十月より八年三月まで、同文科大学副手。
- 一、大正八年九月、第三高等学校講師を命ぜらる。
- 一、大正九年十月、第三高等学校教授に任ぜらる。
- 一、大正十一年四月より昭和二年三月まで京都帝国大学文学部講師。
- 一、昭和二年七月、同大学文学部助教授に任ぜらる。
- 一、昭和二十一年十一月、文学博士の学位を受く。
- 一、昭和二十三年一月、パージにより第三高等学校教授兼京都帝国大学助教授を免ぜらる。
- 一、以後三十一年三月に至る間、自宅にて研究に専念、「彦根市史」「塚文化史」などの編纂に従う。
- 一、昭和二十三年以降、近畿日本鉄道嘱託。
- 一、昭和二十六年十月、パージ解除、教職員適格確認さる。
- 一、昭和二十八年創立の京都国際ライオンズクラブの会員となり、ガバーナなどを勤む。
- 一、昭和三十一年四月より四十一年三月まで京都女子大学文学部教授。
- 一、昭和四十一年四月、大手前女子大学創立以来、学長に就任、あわせて学校法人大手前女子学園理事。
- 一、昭和四十三年創立の日本古文書学会の二代目会長に就任。
- 一、昭和四十三年十一月、勲三等瑞宝章を受く。
- 一、昭和五十一年二月二十三日、逝去、享年八十五歳。
- 一、正四位を追贈さる。

中村直勝先生著書目録

川勝政太郎 編

建武四年鈔録論語解説	蒲田家	一四・一	後水尾天皇御紀	大覚寺	二六・五	中村直勝日本史(三)	白川書院	四三・一〇			
後醍醐天皇と金剛寺	金剛寺	一四・五	天満宮の御芳徳	北野奉賀会	二七・三	吉都の門	淡交社	四三・一一			
豊国大明神御神徳記	豊国神社	一四・七	宮崎友禅翁小伝	足利ノ尊氏	二八	南坊録	浪速社	四三・一			
水無瀬・山崎附近	京阪電鉄	一四・七	足利ノ尊氏	弘文堂	二八・二	茶道の心	浪速社	四三・一〇			
荘園の研究	星野書店	一四・一〇	南坊録に学ぶ	近鉄	二九・九	東山殿義政私伝	河原書店	四五・一			
大鏡閣 大正一一・八	勤皇護国	一五・四	佐紀・佐保	星野書店	二九・一〇	日本芸能小史	浪速社	四五・五			
星野書店 昭和二・六	後醍醐天皇御園係十五官幣社御祭神御神徳記	安場植次郎先生小伝	増鏡	アテネ文庫	三〇・九	日本想芸史(再刊)	学生社	四五・五			
春日神社文書(第一)	春日神社	三・五	建武中興記念会	一五・一〇	星野書店	三二・二	語らばやな古社寺	堺市教委	四六・三		
後醍醐天皇御略伝	吉野神宮	三・一	近江神宮	一五・一一	日本史大概	同	三三・七	堺文化史伝	同		
醍醐天皇御事略	醍醐寺	三・二	近江神宮と御祭神天智天皇の御聖徳	一五・一二	日本合成化学工業(株)三十年史	其社	三三・一二	中村直勝日本史(四)	白川書院	四六・七	
談山神社文書	星野書店	四・一	吉野朝時代史通論	一六・三	日本合成化学工業(株)三十年史	同	三三・七	堺文化史伝	同		
宇多天皇御事紀	仁和寺	五・五	日本文化と京都	一六・五	淡交新社	三四・一一	カラー京都の魅力(洛北)	淡交社	四六・八		
弘法大師の教育	星野書店	五・一〇	概観国史	一六・一〇	常照皇寺	三五・七	カラー京都の魅力(洛西)	淡交社	四六・一〇		
北畠親房	星野書店	七・二	嵯峨天皇の御聖徳	一七・七	淡交新社	三五・七	カラー京都の魅力(洛東)	淡交社	四六・一一		
結城宗広卿と其時代	結城神社	七・一〇	日本新文化史	吉野時代 内外出版	一七・七	続京の魅力	光嚴天皇	同	三六・五		
春日神社文書(第二)	上田泰文堂	九・一	通説日本上代史	日井書店	一七・七	天台宗務庁	一七・一一	吉野熊野路の魅力	同		
建武中興と大阪阿倍野	阿倍野神社	九・三	仏教の日本精神に及ぼした影響	天台宗務庁	一七・一一	吉野熊野路の魅力	同	三七・二	日本古文書学(上)	角川書店	四六・一二
天皇と国史の進展	賢文館	九・九	天台宗務庁	一七・一一	吉野熊野路の魅力	同	三七・二	日本古文書学(上)	角川書店	四六・一二	
大織冠藤原鎌足公の生活	談山神社	九・一二	北畠親房公景伝	星野書店	一八・三	平安時代の文化	至文堂	三七・五	カラー京都の魅力(洛中)	淡交社	四七・二
徳川家光	建設社	一〇・四	通説日本中世近代史	日井書店	一八・四	斜めに見る京都	白川書院	三七・五	カラー近江路の魅力(乾の巻)	淡交社	四八・四
吉野町史	星野書店	一〇・六	日本概史	文芸春秋社	一八・八	京の庭を歩く	白川書院	三七・九	便利堂	三七・七	
国史の中核	長野県	一〇・八	随筆楠公	星野書店	一八・一二	起請の心(限定版)	白川書院	三七・九	カラー近江路の魅力(坤の巻)	淡交社	四八・七
古文書学	国史講座	一〇・九	国史の話	全国書房	一八・一二	歴史の発見	白川書院	三八・五	カラー美濃路の魅力	淡交社	四九・八
宗良親王御伝略	井伊谷宮	一〇・九	神社文化史	一条書房	一九・三	京の仏達	白川書院	三八・五	カラ！美濃路の魅力	淡交社	四九・八
北畠親房(日本教育家文庫)	日本想芸史	一一・一〇	新京の魅力	中村直勝日本史(一)	二二	京のやしろ	白川書院	四〇・一	荒説日本史(上)	主婦の友社	五〇・一一
国史通論	星野書店	一一・七	水無瀬山崎附近(再刊)	宝書房	二二・一一	京のやしろ	淡交社	四〇・一	荒説日本史(中)	主婦の友社	五〇・一一
天智天皇	近江神宮	一一・九	経済史観日本(上)	白井書店	二三・一一	茶道	裏千家	四〇・五	荒説日本史(下)	主婦の友社	五〇・一一
天野山金剛寺略志	金剛寺	一一・一〇	南都北嶺	星野書店	二三・九	大和のやしろ	淡交社	四〇・九	荘園の研究(復刊)	防長史料社	五一・四
大楠公夫人と統後夫人 湊川神社	一三・一二	崇徳天皇御事紀	白峰神宮	二四・九	中村直勝日本史(二)	白川書院	四〇・一一	日本古文書学(下)	角川書店	五一・四	